

重信助教(中日本航空)が技術協会会長賞

関市迫間の中日本航空専門学校航空整備科の重信志郎助教(30)が製作した教材が、昨年度の日本航空技術協会会長賞を受賞した。航空機のプロペラと油圧、エンジン出力などを制御する内部構造が連動する様子を目視できる全長約70cmの模型で、重信助教は「学生の理解をより深めるために製作したものが、こういう形で評価されてうれしい」と喜んだ。

(富樫一平)

航空教材学び飛躍的

プロペラ機 内部の構造 模型で可視化、高評価

同賞は航空業界で活躍する企業や団体、学校などが行う研究開発やグループなどの業務改善、航空技術者指導などの分野で大きな成果があった活動を表彰する。学校部門と企業・団体部門があり、昨年度は両部門に計26件の応募があった。

重信助教が教える、二等航空整備士コースでは、「ビーチクラフト式A36ボナンザ」という教材用のプロペラ機を題材に、内部構造を学ぶ授業があるが、イラストだけでは学生の理解がなかなか進まなかった。また実際の機材の一部を切り出して教材に転用するのは、コスト面で難しかった。

このため重信助教は、2年前から3Dプリンターを使った独自の教材を製作。改良を加えながら昨年、2号機として完成した模型が、プロペラと内部の動きが可視化された優れた教材として評価を受けた。隣接する部品の色を変えるなど見た目にも分かりやすい構造に工夫し、授業中だけでなく、休みの時間の学生たちによる自主勉強会でも使われている。

重信助教は「創意工夫で作り上げた教材。今後も学生たちの学びを後押しするような授業や教材作りを進めたい」と語った。

受賞した教材を手に喜びを語る
重信志郎助教 関市迫間、中日本航空専門学校

